

# 希望の笛

札幌市立新琴似北中学校学校便り

令和7年3月14日(金)

～卒業式

Web版～

<https://www.shinkotonikita-j.sapporo-c.ed.jp/>

## 令和6年度 第52回 卒業証書授与式 式辞 (抜粋)

校長 中山 明彦

春を待つ名残雪なごりゆきが、旅立つ皆さんを見送る今日この日。新琴似北中学校は、第52回卒業証書授与式の佳き日を迎えました。本日、PTA 会長様、出身小学校の校長先生をはじめとするご来賓の皆様、そして卒業生の保護者・ご家族の皆様にご臨席いただき、心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんと共に過ごした日々は、私にとってかけがえのない時間でした。2年生になった始業式で、新琴似北中を「笑顔・挨拶・思いやり」にあふれた学校にしていこうとお話したことを覚えていますか。あれから2年が経ちましたが、毎朝の元気な挨拶、休み時間や給食の時間の何気ない会話、生徒会活動や部活動での真剣な表情など、その全てが皆さんの成長と輝きを物語っていました。一人一人の笑顔、挨拶、思いやりが、新琴似北中のハートフルな雰囲気築いてきたのです。

思い出も尽きません。6月の修学旅行では、世界遺産・平泉の中尊寺を訪れ、盛岡では班で協力しながら自主研修にも取り組みました。どの場面でも、明るく朗らかな姿が印象に残っています。また、震災学習で訪れた津波遺構・田老観光ホテルでは、悲劇を語り継ぐガイドの方の話に真剣な表情で耳を傾け、被災地の現実を自分事として受け止める姿がありました。津波で鉄骨がむき出しになったホテルの最上階では、自然災害への備えや命の尊さについて改めて考えを深めたことでしょう。

こうした中学校生活を通じて、卒業生の皆さんの特筆すべき素晴らしさは、仲間意識の強さと、友達を大切に作る心にあると私は感じます。3年生の国語で学んだ『論語』という書の中に、次のような言葉があります。

「曾子曰く、君子は文を以って友を会し、友を以って仁を輔く。」

私が考える意味合いとすれば、学びを通じて出会った仲間との関わりの中で、いつの間にか思いやりの心も育っていくものであり、よき仲間がいてこそ優しい気持ちが育まれるという教えです。

卒業生の皆さん、どうか、北中を卒業した後も、よき仲間と共に努力を重ね、思いやりの心、優しい気持ちを大切にしながら自分自身の夢や希望に向かって、たくましく人生を歩み続けてください。胸を張って巣立つ第52期卒業生の未来が幸多きものとなることを心から願っています。

長く厳しかった冬もようやく終わりを告げ、柔らかな春の兆しを感じられる、希望に満ち溢れた季節となりました。今日この良き日三年間の学業を終え、この新琴似北中学校を巣立っていく三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

皆様の卒業が、こんなにも早く来てしまうことに対し、信じられないような気持と共に、寂しさがこみ上げてきます。今、改めて振り返ってみると、先輩方と過ごした日々が昨日のこのように思い出されます。

三年前春、皆さんは新しい制服に身を包み、期待と不安を胸に、この新琴似北中学校に入学されたことでしょう。その日から早くも三年が過ぎようとしています。数えきれないほどの様々な思い出がよみがえってこられることと思います。皆さんにとっての中学校生活は決して楽なことばかりではなく、時には辛く、苦しいこともあったでしょう。ですが、様々な経験を得て、充実した日々を過ごすことができた三年間だったのではないのでしょうか。

私たちから見た皆さんは、いつも輝いていて、どんな時でも私たちの見本となり、熱心にリードしてくださいました。私たちが中学校に入学したばかりのころは、期待の反面、不安や心配を抱えていました。ですが、皆さんはそんな私たちを心から歓迎してくださり、不安だった中学校生活が、色鮮やかなものになっていきました。そんな先輩方のたくましさを見て、憧れを抱いたのを今でも覚えています。

部活動では毎日一生懸命に取り組む先輩方を見て、私たちに本気になることの大切さを教えてくれました。同じ目標に向かって一緒に歩み、汗を流し、時には涙を流すこともあったでしょう。でもそんな先輩方の姿から、私たちに夢と希望をあたえてくれました。

生徒会、委員会活動では、先輩方が中心となって一つ一つの行事や仕事を丁寧にこなし、どんな壁に直面したとしても、臨機応変に対応している姿に驚かされました。そして、行事や仕事に対する積極性や、責任感を持ち、仲間と支えあって進めていこうとする姿勢にはすごく感動しました。ミスをしてしまったり、分からなくなって戸惑っている時に、優しく丁寧に温かい声をかけていただきました。いつも支えてくださったことに心から感謝しています。

私たちは、先輩方とこの学校で出会い、たくさんの素敵なことを学びました。何事も一生懸命に取り組むことの大切さや、仲間と団結し、互いに支え合うことの素晴らしさ。そんな数々の宝物を、この先もずっと受け継いでいきたいです。

皆さんはこの先に待ち受けているものに、期待や緊張、不安などを抱えているでしょう。それぞれの道の先には、どんな出来事があるのか想像してみると、やはり「不安」という言葉が大きく現れると思います。ですが、それは自分を守るために必要な機能の一つでもあります。きっと皆さんなら、中学校生活で培った経験を活かし、どんな不安でも戦うことができると思います。きっと大丈夫です。いえ、絶対に大丈夫です。私たちが見てきた先輩方の姿はいつも魅力的でした。ハートフルな心を持っている皆さんなら、他にない、素敵な生活を送っていけるでしょう。そして、どんな時でも皆さんのことを応援している私たち、先生方、保護者の方などがずっと側にいます。ずっと忘れないでください。私たちは皆さんがいてくれたからこそ、笑っていられました。そして、泣くこともできました。そんな先輩方をいつまでもずっと、忘れません。こんなにも素敵で美しい思い出や、私たちが皆さんに教え、導かれたこと、全てがこの学び舎に詰まっています。この大切な学校を、次は私たちが支え、引っ張っていきたいと思います。

最後になりますが、この新琴似北中学校で過ごした三年間の思い出を胸に、どんな時でも前へ力強く羽ばたいてください。先輩方のそれぞれの道でずっと輝き続けてください。皆さんの未来が明るく輝く光で包まれることを願っています。

さようなら。お元気で。



春の香りが漂いはじめ、陽射しに暖かさを感じられる季節となりました。本日は、私たちのためにこのような素晴らしい卒業式を挙げてくださったこと、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

三年前の春、真新しい制服に身を包み、期待と不安に胸を膨らませ、私たちは入学式に臨みました。思い返してみると、スタートを切ったその日から、私たちの中学校での月日は、あっという間に流れていきました。新入生歓迎会では、先輩方が面白い部活動紹介をしてくださったのが特に印象的で、見ている心が躍ったのを今でも覚えています。初めて班ごとに大きく行動した校外学習では、開拓の村での有意義な時間を過ごしました。時間内に効率良く回るためのルート決めは大変でしたが、話し合いを重ねたことで、級友との仲を深めるきっかけにもなりました。

クラス替えをし、初めての後輩ができた二年生。コロナウイルスの影響で、今まで結歓会として行われてきた行事が学校祭になり、規模もより大きくなりました。前例がなく、わからないことばかりで、戸惑うことや仲間とすれ違うこともたくさんありました。しかし、「初めての学校祭を成功させたい」という気持ちは、どのような場面でも変わることがなく、この気持ちがお互いの絆をより強く結びつけ、学校祭は大成功に終わりました。

そして、ついに迎えた三年生。中学校最大の行事である修学旅行では、岩手県での二泊三日を仲間とともに満喫しました。旅行前は、学年の中で様々なトラブルが起こり、先生方から指導を受ける事態となってしまうため、「このまま修学旅行に行って本当に大丈夫なのだろうか」と不安に思う日もありましたが、当日は大きな事故が起こることもなく、笑顔あふれる素敵な思い出にすることができました。この学年で、三年間の中学校生活を送れたこと、とても幸せに思います。

私たちは本日をもって、この新琴似北中学校を卒業し、それぞれ別の道を歩み始めます。私は、前に進んでいく上で大切にしたいことがあります。それは、「自分自身と向き合うこと」です。自分自身と向き合わずに、これから先の夢や目標を見つけることはできません。夢を叶える過程でくじけそうになっても、ひたむきに努力を重ねてきた今までの自分が、将来の自分へと背中をおしてくれるはずです。卒業生全員が、新たな場所で輝ける未来があると信じています。

温かく、時には厳しく指導してくださったたくさんの先生方、ほんとうにありがとうございました。また、どのような時も傍で寄り添ってくださった保護者の皆様、これからも私たちの成長を見守ってくださると嬉しいです。そして、在校生の皆さん、素敵な装飾やメッセージ、本当にありがとうございました。三年間の生活は、長いようで短く、そしてかけがえのない時間です。一日一日を大切にしながら、この新琴似北中学校をよりよいものにしてください。

最後になりましたが、これまで私たちを支えてくださった全ての方々に、改めて御礼を申し上げるとともに、自然災害に見舞われた方々の復興と、紛争のない世界の平和を祈り、別れの言葉とさせていただきます。